

ガーデンシティふかや推進室[ふかや緑の王国・深谷市櫛引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

第17回 ふかや緑の王国

3月1日(土) 梅まつり

午前10時～午後3時 (雨天決行)

※施設内の駐車場は限りがありますので、下記の臨時駐車場をご利用ください(障害者用駐車場は施設内正門側にあります)。
臨時駐車場: 花植木流通センター外東側(徒歩2分)、櫛引西部自治会館(徒歩2分)、JAふかや櫛引プラザ(徒歩12分)、櫛引ふれあいスポーツ広場(徒歩13分)

深谷市イメージキャラクター **ふっかちゃん** 登場!

お茶会、王国窯焼きピザ販売、キッチンカー、パン・菓子販売、王国オリジナル品販売、花の販売、工芸品販売、消防車展示、パトカー展示、交通安全体験、こま回し体験、万華鏡づくり、王国探検スタンプラリー、コンテストの作品展示などを予定しています。

4月26日(土)・27日(日)

深谷市誕生20周年記念・新札発行1周年記念事業

第22回

ふかや花フェスタ

参加者募集!

会場: 深谷城址公園

1 ガーデニングコンテスト作品 申し込み 4月11日(金)午後5時まで

- | | | | |
|---|--|---|--|
| ①コンテナガーデン部門
(20作品程度)
縦横70cm以内、高さ自由、切り花以外で制作 | ②ハンギングバスケット部門
(20作品程度)
縦横70cm以内の壁掛けタイプ、切り花以外で制作、作品の背景などの装飾不可 | ③オリジナル箱庭部門
(20作品程度)
主催者が用意する縦横52cmの箱(ふかや緑の王国で配布)を使用、高さは自由 | ④高校生部門
(10作品程度)
※コンテナガーデンに限る
縦横70cm以内、高さ自由、切り花以外で制作 |
|---|--|---|--|

2 ステージイベント出演者 申し込み 2月25日(火)午後5時まで

①郷土芸能部門 ②一般部門 ※応募者多数の場合は抽選。深谷市誕生20周年記念・新札発行1周年記念事業の特別ステージを予定しているため、一般部門の募集団体数は例年と比べ少なくなります。

3 販売出店者 申し込み 2月10日(月)午前10時から28日(金)午後5時まで

募集内容 飲食および物販 ※物販は花植木などガーデンに関するものまたは花フェスタ出店経験のあるものに限る

[1・2] 詳しくは、各募集要項(市役所・ホームページで入手可能)をご覧ください。

[3] 詳しくは、深谷市民文化会館ホームページをご覧ください。深谷市民文化会館 ☎573-8765) までお問い合わせください。



▲市ホームページ



▲文化会館ホームページ

ふかや学校花はなプラン
～地域で子どもを育てる～

学校花はなプランとは、学校だけで子どもの教育をするのではなく、地域で将来の日本を担う子どもを育てられるよう、子ども・学校・PTA・地域が、一緒になって花壇づくりを行う活動です。

市内小・中学校、幼稚園の皆さんのご協力、花壇づくりが行われています。



▲川本中学校

SNSユーザーネームなどの変更のお知らせ

今年から、各種SNSのユーザーネームなどを「ふかや緑の王国」から「ガーデンシティふかや」に変更し、市内の花に関する市民協働の情報などを発信しています。



▲フェイスブック



▲X



▲インスタグラム

就労継続支援B型 虹色

障害者施設を紹介します

虹色は、障害があるかたなどに就労の機会などを提供する、就労継続支援B型のサービスを行っている事業所です。

利用者は『生産活動』として、『授産品』や『サービス』を提供し、成果として『工賃』を受け取っています。虹色は、利用者が自分らしく働ける環境を実現していけるよう、アットホームな雰囲気の中、利用者の意欲を引き出し、一人ひとりの特性や目標に合わせたサポートを行っています。就労は、メダカの飼育・販売、冷凍スイーツ・焼き芋販売、製品制作や内職作業のほか、リサイクル活動推進事業として資源回収を行い、施設外就労として、各企業のご協力のもと、農作業や老人ホームの清掃作業に取り組んでいます。

虹色は、利用者がさまざまな活動内容を十人十色の働き方で楽しみ、社会的なつながりを築きながら仕事に取り組むことや、就労で得られる達成感や手応え、収入を通じて、自信を持って自立への一歩を踏み出せるよう、未来につながるサポートを心掛けています。



▲農作業(施設外就労)の様子



▲飼育・販売しているメダカ

☎(一社) フリースタイルスポーツ 虹色 ☎598-4030、障害福祉課 ☎571-1011、☎574-6667

新コーナー『青淵遺薫』では、思わず「へえーそうなん」と深谷弁で驚いてしまうような、新1万円札の肖像となった渋沢栄一に関する小話を紹介します。

渋沢栄一の趣味

渋沢栄一には、近代日本経済の父と呼ばれる数々の功績の傍ら、余暇を彩る趣味がありました。それは、字を書くこと、書道です。書は、栄一が12、13歳の頃から父の市郎右衛門に習い、その後18歳まで伯父の渋沢宗助に学び、「栄一さんはなかなか上手い、俺の跡が継げるよ」と褒められるまでに上達します。実業家になり、揮毫(毛筆で文字を書くこと)を求められることも多くなりますが、栄一にとって書とは、あくまで邪



青淵遺薫
栄一の小話

念を取り払い、心を無にして打ち込める最良の趣味だったようです。ほかに、漢詩の創作や、落語歌舞伎、義太夫や浄瑠璃の鑑賞にも親しみ、落語家の三遊亭円朝、歌舞伎役者の市川團十郎や尾上菊五郎などを好んでいました。また、若い頃には、将棋や囲碁も楽しみました。特に将棋は、大隈重信の邸宅で、腕に自信のある福澤諭吉と勝負してみたら、栄一が勝ってしまうほど強かったといえます。新1万円札の肖像の2人が将棋を指す仲でもあったとは不思議な縁です。後に、仕事の時間つぶしをしてはいけないうやめてしまいましたが、将棋や囲碁が好きだったと自ら振り返っています。

このことから、旧渋沢邸「中の家」が、第74期『王将戦』第5局(3月8日(土)・9日(日))の会場に選ばれ、藤井聡太王将と永瀬拓矢九段の対局が予定されています。これも栄一の趣味からつながるすてきな縁といえます。



▲旧渋沢邸「中の家」